

平成29年度第9回未来創造セミナー
『備える防災』から『いつもの減災』へ！

平成29年2月17日

UDCBK

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業

スケジュール

第1部

10:00~10:15

「アーバンデザインセンターびわこ・くさつ」ご紹介

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ 溝内 辰夫

第2部

10:15~11:55

『備える防災』から『いつもの減災』へ！

立命館大学教育共通推進機構准教授
災害復興支援室副室長

山口 洋典 先生

11:55~12:00

アンケート記入（今後のスケジュール）

記念写真



UDCBK って なに？

産学公民が
連携して

U	- rban	アーバン	未来の都市の
D	- esign	デザイン	デザインを考えるための
C	- enter	センター	人や情報が集まる場所
B	- iwako	びわこ	びわこがある
K	- usatsu	くさつ	草津のまち

さんがくこうみん れんけい
産学公民が連携して ?

草津のみらいをよくしたいという
志（こころざし）を持つ民（たみ）

UDCBK

社会実験

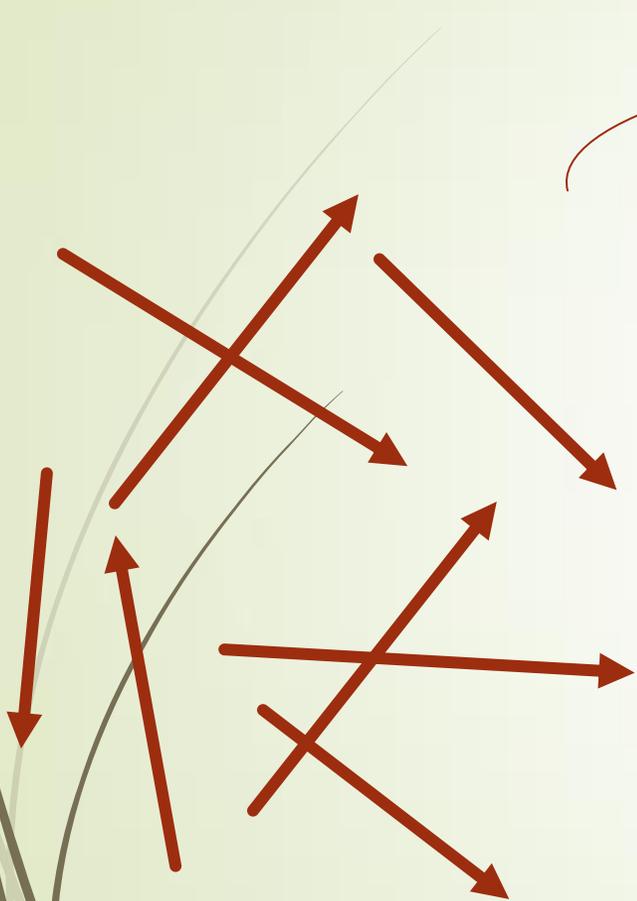
さん
産

がく
学

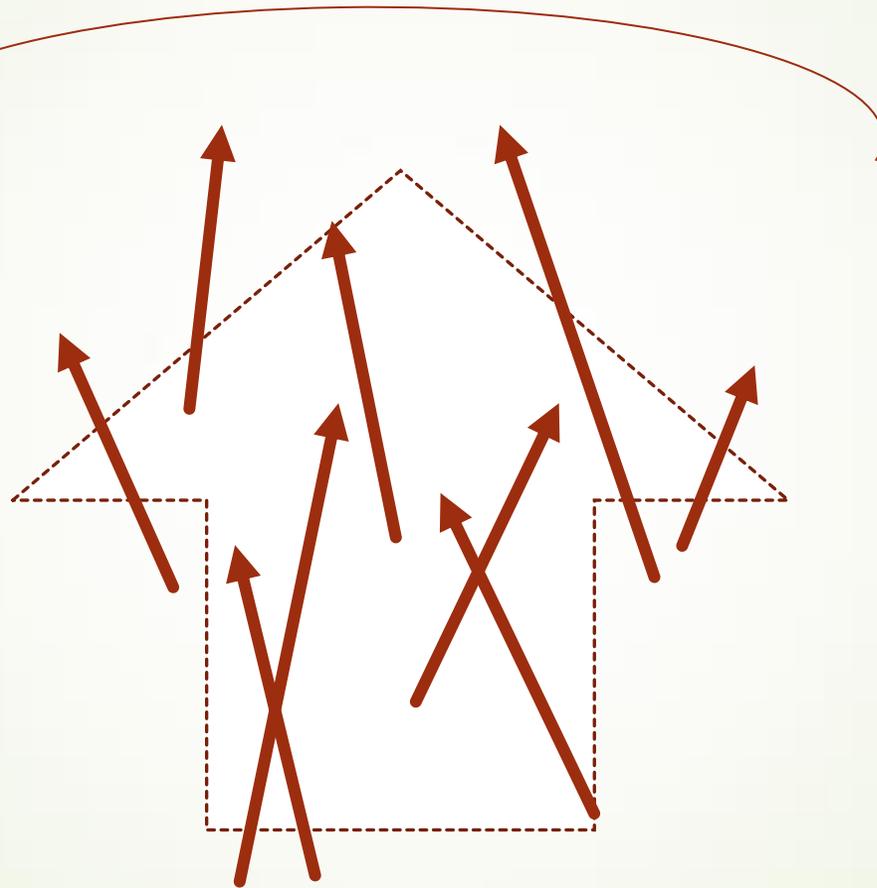
こう
公

みん
民

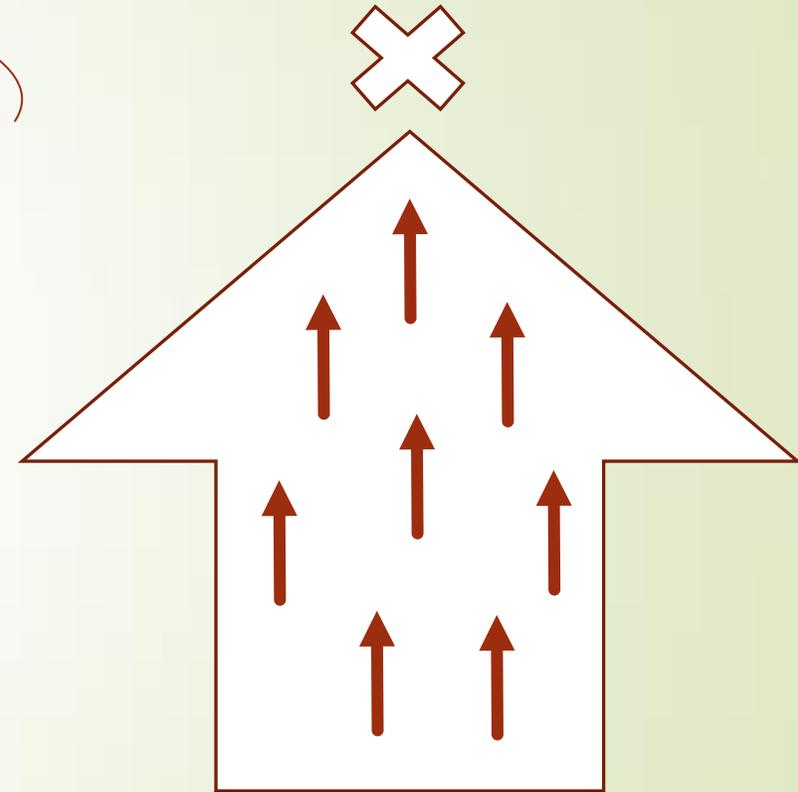
庭師（ガーデナー）としてのUDCBK



ばらばら



未来志向



現在志向

UDCBKの目標

いろいろな未来のまちのイメージ（選択肢）の展示室

- 支配的なストーリー（ドミナント・ストーリー）をベースに、個々人の生活習慣や価値観に即した新たな未来（希望）のストーリー（オルタナティブ・ストーリー）を紡ぐこと
- そのストーリーを実現するために必要な機能（制度、ソフト・ハード）を提案すること

ドミナント・ストーリーの特徴

- ▶ 平均的な人物 たいていは健康な成人男性を想定
- ▶ 平均的な地域を想定 日本の平均だったり、地域の平均だったり
- ▶ その人の持つ経験や技術や知識や価値観など無関係
- ▶ その人の未来への希望（選択肢）への配慮なし

計画

制度

規範

オルタナティブ・ストーリーの特徴

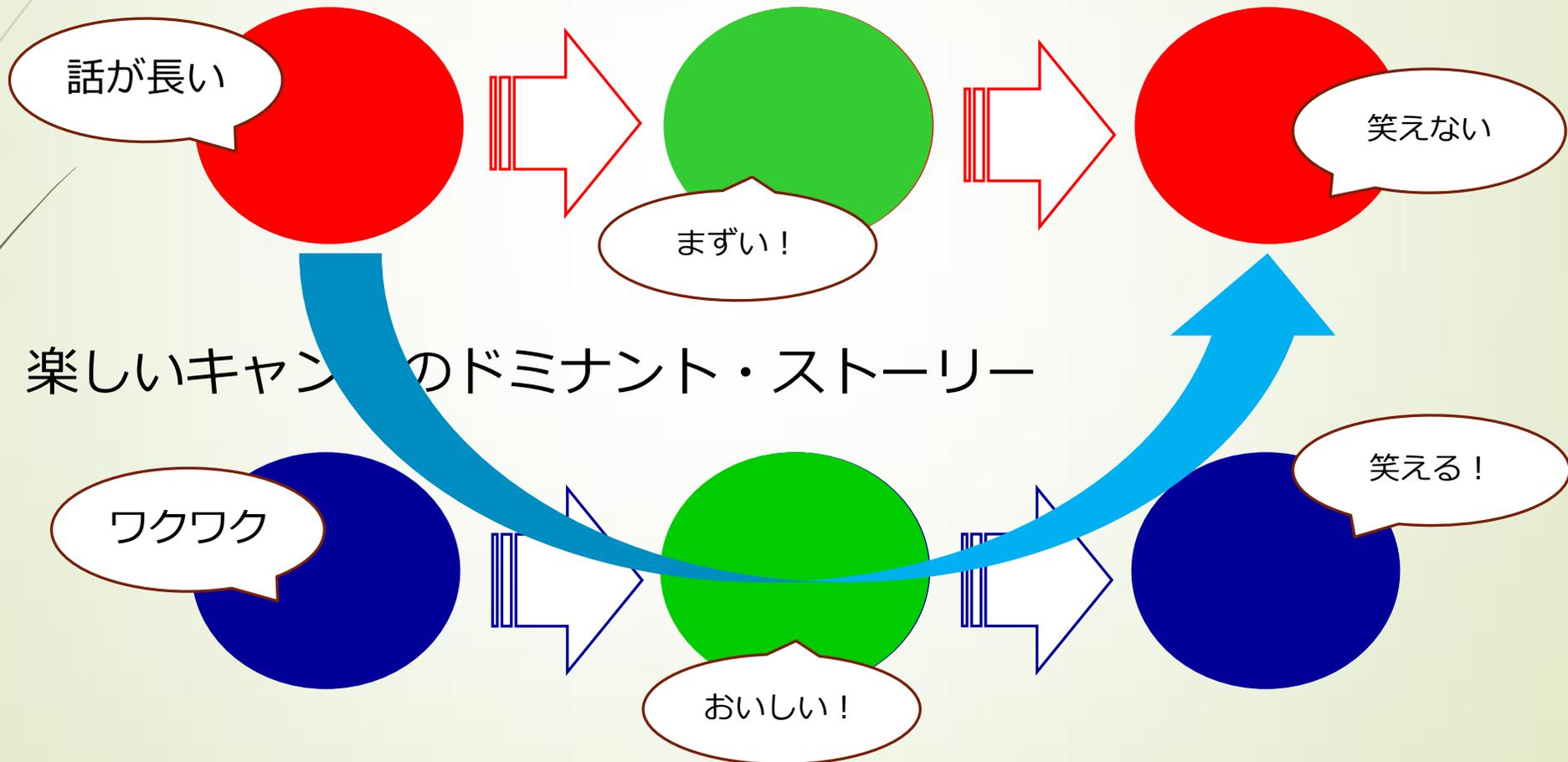
- かけがえのない一人一人の語りを大切にする。
- その人が住んでいる特定の場所
- その人の持つ経験や技術や知識や価値観を踏襲
- その人の未来への希望（選択肢）を実現

ドミナント・ストーリーをベースに
修正を加えたり、まったく別の話に書き換えられたストーリー

防災キャンプ（草津市社会実験推進事業）

防災のドミナント・ストーリー

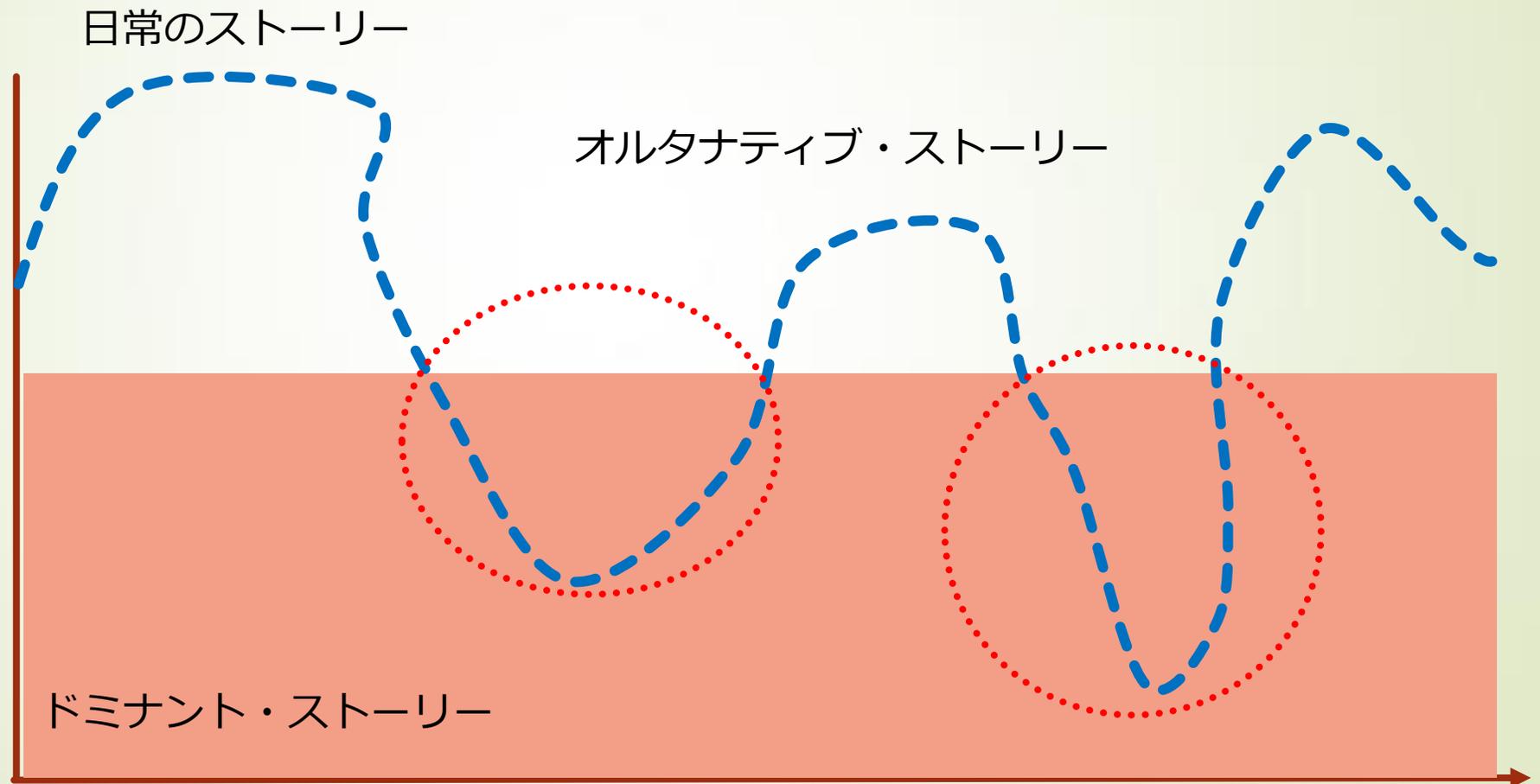
防災のオルタナティブ・ストーリー



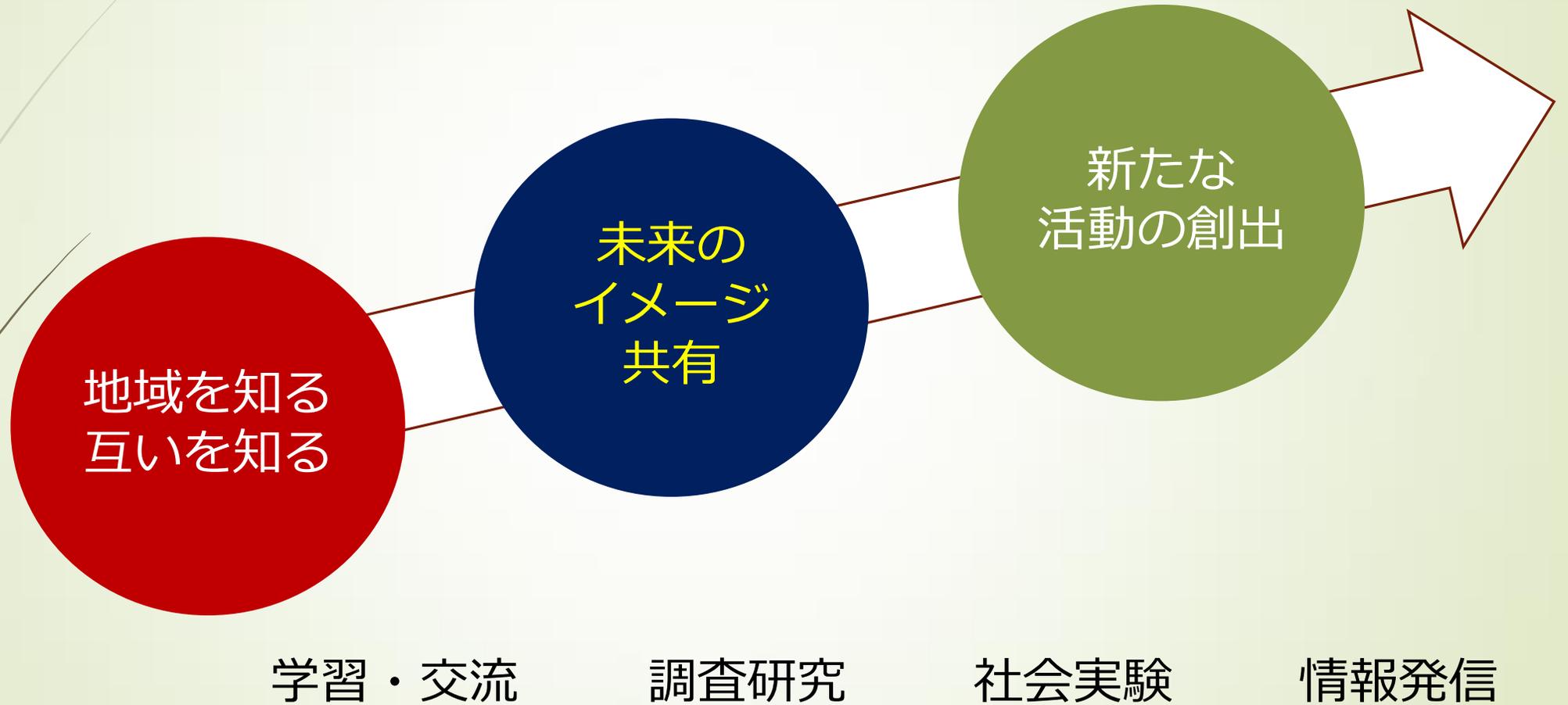
オープン・データ調査研究 (立命館大学への委託研究) (ハザード・マップのパーソナライズ化)

- ▶ ハザード・マップの特徴
 - ▶ ある特定の災害を想定していること
 - ▶ 時間軸（災害の発生時期・日時、そして経過）が表現できないこと
 - ▶ そこに住んでいる人の情報がないこと
- ▶ ハザード・マップのパーソナライズ化
 - ▶ ハザード・マップにリアルタイムのデータを重ね合わせる
 - ▶ ひとつひとつのデータの正確さではなく、データ群として曖昧評価

ドミナント・ストーリーと オルタナティブ・ストーリー



3つのコンセプトと4つの機能



『備える防災』から『いつもの減災』へ！



立命館大学教育共通推進機構准教授
災害復興支援室副室長

山口 洋典 先生

第4回アーバンデザインスクールのご案内

- ▶ 平成29年2月18日（土曜） 午前10時から正午
- ▶ 場所；市民交流プラザ 中会議室

- ▶ シリーズ アーバンデザインセンターを知る

「草津・南草津の特性と湖南エリアの商業集積について」

大橋 康男 （草津市都市計画部まちなか再生課）

第5回アーバンデザインスクールのご案内

- ▶ 平成29年3月11日（土曜） 午前10時から正午
- ▶ 場所；市民交流プラザ 中会議室

- ▶ シリーズ アーバンデザインセンターを知る

「これからのUDCBK（仮称）」

及川 清昭 UDCBKセンター長

（立命館大学理工学部教授、立命館キャンパス計画室長）